



小柳ルミ子と母



◆「看取れなくて悔しい」小柳ルミ子、号泣…母・愛子さん通夜

歌手、小柳ルミ子(54)の母親で、12日に悪性リンパ腫のため死去した小柳愛子さん(享年86)の通夜が14日、福岡市の積善社福岡斎場でしめやかに営まれ、約150人が参列した。式後に取材に応じたルミ子は大粒の涙を流しながら「親というより人として立派で、世界一素晴らしい母親だと思う。私は亡くなったって思っていないです」と最愛の母との別れを惜しんだ。



「亡くなってはいない。お母さんは私の体の中に共存している」。ルミ子は心の中でこう思いながら母の遺影に手を合わせたといい。斎場には、7月に愛子さんが見に来てくれたディナーショーの映像が流れた。祭壇には胡蝶蘭や白菊が飾られ、ルミ子が「一番お母さんらしい笑顔」と選んだ愛犬と微笑む愛子さんの遺影が飾られた。通夜後、取材に応じたルミ子は「まだ実感がわかない」と憔悴しきった様子。「本当に最後まで私の手を煩わせない人だった。11日でも13日でも(福岡に)会いに行けたのに、看取れなくて、悔しくて…」と何度も涙をぬぐった。ルミ子によると、愛子さんは平成13年から闘病生活を送り、今年11月に容体が悪化。「どこが病気のなというくらい元気だったのに、11月12日に『一生懸命、稼ぐね』って病院で話したのが最後でした」と声を震わせた。愛子さんはルミ子の芸能界入り尽力した。宝塚歌劇団に入るために5歳からバレエやピアノなど8つもの習い事に通わせ「しっかりと生きていけるように」と厳しく教育しながら、ルミ子を支え続けた。ルミ子もその愛情の深さをひしひしと感じたという。「昔は親子というより教育者と生徒という感じ。それが病気で看病することによって初めて親子になれた気がするんです」。控えめに生きて、決して表に出ることはしなかった愛子さん。ルミ子は「これからはお母さんのエネルギーをいっぱいもらってバリバリ歌います。何より供養になるので」と亡き母に誓った。棺には今年7月に福岡で行ったルミ子のディナーショーのビデオや愛子さんがとくに気に入っていたルミ子の青色のスパンコール衣装などが納められ、斎場には元夫でダンサーの大澄賢也(41)ら約200人の業界関係者から供花が届けられた。

(2006年12月15日付け)
 (参考・写真/サンスポ: www.sanspo.com/
 アマゾン: www.amazon.co.jp)

昨年12月のニュースでインタビューを見た。強い意志の力を感じさせる眼光鋭い母親の写真。そのお母さんが、芸能人にさせるために、命と引き替えにしてまで産んだ子供。この鬼気迫る母親に子どもが叶はずがない。母のレールの上で“しか”生きられない世界に、その子は置かれた。反抗など入り込む余地さえない世界だったのではないかと。あれもこれもと押しつけられる子どもの精神世界は相当なものがあったのではないかと。思う。

大澄賢也との離婚原因が、直接は大澄の浮気話だが、その裏には大澄が子供を望んでいたが小柳が全く望んでなかった事にあるというの、肯ける気がする。そして、「はてなダイアリー」に書いてあった簡単な紹介が面白かったが、『サイボーグ然とした女優。タレント』になっていく(歌手デビューの頃はそうじゃなかったけどね…)。

小柳ルミ子が言っていた。

親に甘えたことがない。母は教育者で私は生徒—そういう感じがずっとしていた。だけど、母が病気で倒れてから看病に行ったり来たりする中で親子になれた気がする…。

聞いたとたん涙がにじんできた。「ああ、親子になれてよかったなあ…」そういう思いが、つくづく湧いてきた。どうも涙もろいのだが、しかしそれは、親との関係で苦しんでいる子供たち(今や子どもの親となっている“子供”も含む)を沢山知っているからだ。

小柳ルミ子は、母親が80歳を超えて後、初めて親子になれた…。

それでも、なれたからよかったと思う。お母さんが病気になることが、神の恵みにさえ思う(不謹慎だが…)。ルミ子に女としての幸せを教えていなかった気がする、と言っておられたお母さん。小柳ルミ子が結婚したときは嬉しかっただろう。しかし、離婚して後は、またいろいろな思いがあっただろう。

しかし、実は最も教えていなかったのは「親子のぬくもり」だったと思う。親子のぬくもりを感じている子供は、女としての幸せなど教えていなくても、結婚し暖かい家庭を築いていく。子供にとって必要なのは、ぬくもりのある親子の触れ合いだ。

お母さんは病気になることによって、最後の最後に、これまでの人生で教えていなかった最も大切なことを娘に教えた。そして、この6年間という一つの区切りの歳月を通じて、親子のぬくもりを取り戻し、そして親子に戻る事ができて本当によかったと思うのだ。

臨終の日。小柳ルミ子はステージに立っていた。それが母の望みと知り、ルミ子はステージをおこなった。電話口で「瀬戸の花嫁」を歌い、それを聞きつつ母は息を引き取ったという。ステージではおくびにも出さず、しかし「愛の讃歌」を歌うと号泣したという。

“サイボーグ然”と書かれてしまった小柳ルミ子も、今暖かいものをもらって、長い長い旅路は終わった。これから、どのような道を歩もうともまったき人生である。

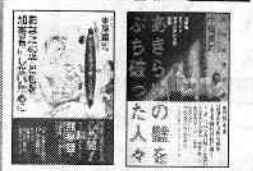
これからの人生に幸多からんことを—
 (中尾 英司)

<著者紹介>

中尾英司(家族相談士・シニア産業カウンセラー)

- メール: sodan@jiritusien.com
- プロフィール: 電話&メール相談、及び直接ご家庭に伺って家族カウンセリングを行い、虐待、ADHD、窃盗癖、ギャンブル依存、モラハラ、DV、離婚、会社のセクハラ・パワハラの問題などを手がけている。組織改革を成功させた後、会社の風土改革から家庭の風土改革に軸足を移す。シニア産業カウンセラーの育成、講演依頼COMの講師、テレビ東京「朝は楽しく!」の「我が家の事件簿」のコーナーでコメント出演。
- 著作: 「あきらめの壁をぶち破った人々」(日本経済新聞社) 「あなたの子どもを加害者にしないために」(生活情報センター)
- サイト: 「中尾相談室」、「組織改革ご支援.COM」。(←Google入力)
- ブログ: 「あなたの子どもを加害者にしないために」

※中尾先生のオンライン講座も開講中です。詳しくはサイト「中尾相談室」を参照。



富士山コムでも購入可能です。
 (www.fujisan.com)
 富士山.com は海外在住(アメリカ・カナダ)の方のために日本のあらゆる商品をお届けするオンラインショッピングサイトです。